

α1-酸性糖蛋白				7465300	
				担当部署	
α1-AG				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→0			
	2	0			
	3				
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報			特記事項なし		
検査受付時間			8 : 15～16 : 00		
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間			冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			
生物学的基準範囲		42～93mg/dL N-アッセイ T I A α1-A G ニットーポー添付文書			
臨床判断値		設定なし			
基準値					単位
					mg/dL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
42	93	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		α1 アシドグロブリン(α1AG)は血清蛋白の一種で、電気泳動上α1 分画中に認められる分子量約 4 万の糖蛋白である。 糖含有量がきわめて多く、重量の約 4 割近くを占める。 5 本ある糖鎖の分子量は 2400～3100 で、それぞれ異なる糖鎖構造をとっており、末端にはシアル酸が付着している。 α1AG のシアル酸含量はきわめて多く、電気泳動上の不均一性は糖鎖構造の違いによるものとされている。 α1AG は C 反応性蛋白(CRP)をはじめとする急性相反応性物質(acute phase reactants)の一種である。 急性相反応物質とは組織の損傷や感染、急性の炎症に対して非特異的に急性相反応を誘起する物質の総称である。 α1AGやCRPのほか、α1 アンチトリプシンやセルロプラスミン、ハプトグロビンなどが急性相反応物質に分類され、急性・慢性感染症、自己免疫性疾患、アレルギー疾患などにより産生が亢進し血中濃度が上昇する。 また、α1AG にはプロゲステロンと結合し失活させる作用が知られている。 三菱化学メディエンス 検査項目解説 改訂第 4 版 445 また当院では、α1AG・CRP・ハプトグロビンは新生児感染症スクリーニングの APR スコアに用いられる。			